

# 変化と成長

a2200511 甲斐未敬

## (制作意図)

私にとって漆とは何か?と考えた時に「変化し生きている材料」だと感じました。

漆はゴミを嫌い丁寧に扱わないと美しく乾いてくれません。日々、色・形などが変化(成長)していきます。

二年間漆と関わり考え方が変化し、たくさんの技術と技法を学び私自身も大きく成長(変化)することが出来ました。

漆はどんな物にでも塗ることが出来、表現の仕方は無限にあります。今まで身につけてきた技法や技術を使い、私自身の成長と漆の変化、感じる事が出来る作品を表現したいと思いテーマとしました。

## (制作工程)

<廃材>

- 1 廃材集め
- 2 選別
- 3 加工・組み立て(ホイール・鉄板)

<金網>

- 4 布張り(糊漆・薄い麻布)
- 5 下地(切り子「荒」)
- 6 研ぎ
- 7 布張り(厚い麻布)
- 8 研ぎ
- 9 固め(漆)
- 10 黒呂色(2回)

<プロペラ>

- 11 焼き付け(漆・140~150 ・1~2時間)
- 12 黒呂色(2回)
- 13 研ぎ
- 14 螺鈿(加飾)
- 15 口セ(2回)
- 16 研ぎ
- 17 黒呂色(2回)
- 18 研ぎ出し
- 19 磨き

<仕上げ>

- 20 全体の加工・組み立て(仮)
- 21 完成

## (デザイン)

<ホイール>

成長(変化)する前をバイクと自転車で表現する。



<金網>

変化、成長していく漆と私を表現する。



<プロペラ>

たくさんの技術・知識を修得し変化・成長した漆と私を表現する。



<考察・感想>

二年間漆と関わりたくさんの失敗や間違いをし、刷毛を使えなくなったり漆を厚く塗りすぎちぢんでしまいました。

今回金属を胎としましたが、溶接の知識・技術がなく造形のバランスや、金網のパーツを制作しているときに切り取った断面が扱いにくく、またテーマに沿った処理をしてから布を貼り付け、切り子で隙間を埋める作業の繰り返しにはとても苦労しました。

造形の表現をただパーツとパーツをボルトで繋げるだけではなく、金具の見せ方や金属特有の光沢と漆の光沢をいかした作品にしました。

この作品は自由に取り外しが出来ます。

しかしパーツ一つ一つの組み合わせが適していないと形を固定することが出来ません。

思いの場所にパーツを固定しようとしても大きさや重さのバランスをうまく考えなければ全体の形が安定しないという点が困難でした。

それまでのちぢみなどの失敗から感じた新しい漆の表現がヒントとなり私がやりたいことを明確にする事が出来ました。

漆造形を完成させる過程での美しさ・発見の追求を卒業研究のテーマとし、研究する楽しさも学ぶ事が出来ました。

日々漆にかぶれ、時間との戦いでしたが充実した二年間でした。